

No.264

2022年
9月号

さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館
〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

展示のご案内

展示期間 9月29日(木)まで

★メイン展示

『認知症になっても 安心して暮らせる社会を』

9月21日は「世界アルツハイマーデー」及び毎年9月は「世界アルツハイマー月間」と定められていることをご存じですか。

この度、坂本図書館は宿毛市長寿政策課と宿毛市地域包括支援センターと連携し、「認知症」について知ってもらうための展示を行いました。すでに認知症の方を介護している方や、認知症なんて私には関係ないわという方にも手に取ってほしいコーナーとなっています。病のあるなしに関わらず、みんなで支えていける優しい社会になるといいですね。

今回の展示は、

- ・認知症がテーマの作品
- ・今から知っておきたい認知症のこと
- ・その他

という3つのコーナーを用意しました。



●メイン展示図書(抜粋)

「認知症の始まりは歩幅でわかる」「もう一度会いたい」
 「百花」「ペコロスの母に会いに行く」「ヘルプマン！」
 「マンガ認知症」「介護を変える 未来をつくる」
 「母がおカネをかくします。」「認知症予防は絵手紙で！」

★サブ展示

『9.19敬老の日 じいじ ばあば ありがとう』

日頃からお世話になっているじいじとばあば。まだまだ元気に若々しくいてもらいたいですね。感謝の気持ちを伝えれば笑顔になること間違いなしです。

●サブ展示図書(抜粋)

「時を重ねて、自由に暮らす」「樹木希林120の遺言」
 「ぼくのおじいちゃん」「おばあちゃんことりと」

読書講座のご案内

絵本「やさしいかいじゅう」等を手掛けたひさまつまゆこさんを講師に迎え、絵本を作られた時のお話などを語っていただきます。読み聞かせする方やボランティアに興味のある方ぜひお越しください。



講師：絵本作家 ひさまつまゆこさん

日時：令和4年10月22日(土) 13:30～

場所：宿毛文教センター 2階 視聴覚室

料金：無料

定員：20名

《中学生の職場体験学習》



宿毛中学校の生徒2名が職場体験学習に来てくれました。本の整理や貸出・返却作業などを熱心に取り組んでくれました。この2人はSNS記事も作成してくれました。どんな記事になっているかは今後の投稿をお楽しみに♪

読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

きときと夫婦旅

椰月美智子 著
双葉社

中3の息子、昴が突然学校をサボり家出した。その行き先は富山県の氷見。早速、富山まで迎えにいった夫婦だが昴はまだ帰らないといい、約束の日まで滞在することに…。倦怠期真っ只中夫婦のバタバタの珍道中。イライラの連続の果てにたどり着く終着点とはいかに…。

富山の観光名所や鉄道を舞台に、夫婦が織りなすロードノベルです。

(児童)

僕らが学校に行く理由

渋谷敦志 写真・文
ポプラ社

どうして学校に行くのだろうと思ったことはありませんか？日本では、当たり前のように学校があり、学ぶことができます。しかし、その当たり前ができない国や地域がたくさんある事を知っていますか？世界の子どもたちそれぞれの学校に行く理由を知ってみてください。机にむかうだけではない学ぶことの意義を考える一冊になるのではないのでしょうか。

(一般)

湘南ERが教える 大切な人を守るための応急手当

湘南ER 著
KADOKAWA

普段の暮らしの中で突発的に起こるケガや体調不良。病院へ行ったほうがいいのか、救急車を呼んだほうがいいのか迷ったことはありませんか？幅広い症例に対処してきた現役ER医師が、おうちでできる効果的な応急手当や、病院に行く・救急車を呼ぶ目安を分かりやすく紹介。また、おうちの救急箱に入れておきたいものリストや、家庭での感染対策など役立つ医療豆知識も満載です。

いざという時に慌てず対処できるよう、定期的に読むことをおすすめしたい本です。

(児童)

いもうとなんかいらない

ロイス・ダンカン 作
岩波書店

メアリー・ケイはおねえちゃん。妹がいて名前は、スザンヌ！

ある日、メアリー・ケイは妹のことが嫌になり誰かにあげてしまおうと考えます。

姉妹は離ればなれになってしまうのでしょうか…。

姉妹の成長をいきいきと描いた本です。

※本の紹介文は、スタッフが作成しています。

理解という愛 山下量子

先日、宿毛市市民講座で作家の家田荘子さんのお話「四国遍路とおもてなしの心」を聞かせていただいた。

ちょうどお盆休みに高野山にお参りに行った所で、家田氏もその時期に高野山にいたという。高野山で家田氏の法話を聞いたら良かったのにも思いますが、宿毛市で家田氏の貴重なお話が聞けることがとてもありがたかった。私にとっては二回目の家田氏の講演だった。

家田氏は、女優、OLなど10以上の職歴を経て作家になり、高野山の僧侶でもある。「私を抱いてそしてキスして～エイズ患者と過した一年の壮絶記録～」 「極道の妻たち」などを筆頭に多数の著書がある。私のお気に入り、「四国八十八カ所つなぎ遍路」で、四国遍路を歩く中で、肉体の感覚が研ぎ澄まされていく様子や遍路の魅力が描かれているところが特に好きである。

家田氏の話を知っていると、四国遍路のお話だけでなく、家田氏の豊かな感性、そしてグローバルな視点を感じた。

たとえば社会でのマイノリティな人々や、偏見で見られている人たちにも、家田氏は近づいて、実態を知る。理解に努める。そして社会に溢れている偏見の情報に対し、理解のために情報を与える。そんな人生だったのだろうと感じた。

いつも思うのが、人は理解できないもの、得体の知れないものに対して、拒絶反応を示す。拒絶とは、「もうこれ以上は理解できません」「私とあなたは違います」という反応とも言えると私は思う。

それは人々にとっては当然の反応だと思う。そうやって人は、異物や異質なものを危険と見なし、自分の身を守るために遠ざけてきたのだから。

それは「本能的な防御」だと思う。

では拒絶の反対とは何かと言うと「あなたを理解するために歩み寄ります」という態度で、拒否・否定しないこと、だと私は思う。それは相手に対して愛のある行為だと思う。けれどもそれは、先に述べた防御反応を克服して、一種の危険を冒さなくては出来ない勇気ある行為だと思う。

そう、家田氏は、いつでも、理解するためにその環境に飛び込み、時には海外に渡り、当時、病気が移るから危険と言われていたエイズ患者の人々の中にも身を投じて、彼らの思いや背景を理解し、言葉に記し、より正確な情報を世界に伝えるのだった。

その情報が「得体の知れないもの」に対する社会の拒絶反応を和らげる。

偏見、というものが彼女には無いのである。彼女にあるのは、命と向かいあうこと。

理解しようとする愛。

そればかりなのである。

そしてそのために身体と心をめいっぱい使う。それはまるで、自分の命の役割を全うしている、ともいえるほど、りんとして芯のある美しい生き方だと思った。

たくさんの命を見送ってきた家田氏。死に対峙しながら生きる人たちを目前に、生きるとは何か、その本質は何か、常に向かい合っていたのかも知れない。それが偏見を超え、すべては同じ人間だから、という人類愛ともいえる大きな愛を手にしたのかもしれない。

家田氏はつまり、

大きな大きな愛の人、だと感じた。

そして講演会の中で、ある罪を犯した女性に関しての話を知り、そのような家庭環境ならそうならざるを得なかっただろうと思った。それを知らなければ、ただ「この人は犯罪者だ」と思うところを、その理解で「この人もまた被害者だったのか」と見ることができる。

そしてただその人を罰するよりも、その環境の再発防止のためにどんな施策が出来るのか、まで考慮することが出来ると思う。

つまり理解とは、愛であり、理解とは世界をより良くするものであると感じた。

前述した通り、「私とあなたは違います」という反応が、拒絶反応とも言えるなら、いじめなども根本は同じなのではないかと思う。私とは違う、あなたは違う、あなたは変わってる、そういったことから、拒絶反応がおこり、いじめに転じるのではないかと。

ならば、いじめを無くすには、「理解という愛」が必要ではないかと私は思う。

小さな国土の日本。けれども世界は日本よりももっと、もっともっと大きく、いろいろな人種やいろいろな文化やいろいろな価値感がある。その多様性を受け入れること、理解すること。「あなたと私は違う」ではなく、「あなたと私は同じ人類。あなたの個性も素敵だね」と言い合える環境があれば、いじめは無くなるのではないかと。

相手に歩み寄り理解しようとする愛。家田氏のような勇気。そんな勇気を自分も持っていたいし、たくさん子どもたちにも持って欲しい、と感じた講演会だった。

～新着図書のご紹介～

一般図書



- | | | |
|---|-----------------|----------|
| 4 | 「わが植物愛の記」 | 牧野富太郎 |
| 4 | 「病院清掃というお仕事」 | 日本病院清掃協会 |
| 5 | 「エコな毎日」 | 中嶋亮太 |
| 6 | 「金魚いろ×かたち謎解き図鑑」 | 大森義裕 |
| 7 | 「七転び八起き」 | 井筒大樹 |
| 8 | 「ことばと算数」 | 広瀬友紀 |
| 9 | 「空を駆ける」 | 梶よう子 |
| 9 | 「クローゼットファイル」 | 川瀬七緒 |
| 9 | 「腹を割ったら血が出るだけさ」 | 住野よる |
| 9 | 「財布は踊る」 | 原田ひ香 |
| 9 | 「クリ粥」 | 山本一力 |

※左側の数字は図書の分類を表しています。
 0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
 5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- | | |
|-------------------|----------|
| 「鈴木道雄物語 一步先を歩こう」 | 那須田稔 |
| 「キャラ絵で学ぶ！徳川家康図鑑」 | 千羽ひとみ |
| 「なりたい！が見つかるお仕事図鑑」 | 朝日新聞出版 |
| 「僕らが学校に行く理由」 | 渋谷敦志 |
| 「宇宙のふしぎ366」 | 左巻健男 |
| 「ほんとうは“よわい恐竜”じてん」 | 土屋健 |
| 「がっこうのおばけずかん」 | 斉藤洋 |
| 「やまの動物病院」 | なかがわちひろ |
| 「いもうとなんかいらぬ」 | ロイス・ダンカン |
| 「13歳からの3000円投資生活」 | 横山光昭 |

絵本

- | | |
|---------------------|-------------|
| 「へんしんどうぶつえん」 | あきやまただし |
| 「ノラネコぐんだんラーメンやさん」 | 工藤ノリコ |
| 「ドーナツペンタくん」 | 柴田ケイコ |
| 「アカメとすごしたグレ坊」 | 桂浜水族館スタッフひな |
| 「ぜったいにおしちゃダメ？」 | ビル・コッター |
| 「なまけていません。」 | 大塚健太 |
| 「いっばいあるよ！ごはんどれたべる？」 | てづかあけみ |
| 「しろいうま」 | やなせたかし |

★このほかにもたくさんの図書が入っております。
 図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、
 そちらもぜひご覧ください。

寄贈いただきました



★図書の寄贈

日本郵政グループ労働組合土佐西支部様より
 絵本9冊と、宿毛市出身の森田勇造様より、ご本人が50年以上にわたり世界142ヵ国を探訪された
 集大成の図書8冊をご寄贈いただきました。
 ありがとうございます。

9月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日・祝 10:00～18:00
 ホームページ <https://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-25/p010805.html>
 メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp

は休館日



【図書館HP】

